

元気で躍進 地域経済

12事業者から講師16人

松阪商工会議所 鎌田中でわくわくスクール

松阪商工会議所(会頭 田中善彦・松阪木材株式会社取締役会長)の「わくわくスクール」が3日午後1時50分から、松阪市鎌田町の市立鎌田中学校(伊藤卓哉校長、394人)で開かれた。同会議所の会員企業など12事業者から16人の講師が参加し、2年生(124人)が12の教室に分かれて授業を聞いた。

同会議所がキャリア教育支援の一環で行っている。2014(平成26)年度に同校で開催したのが最初で、以来、同校では毎年実施。

今回は「△産品システムズ(医療品原料製造) △さくら経営支援室(社

会保険労務士) △JSM(障害者就労移行支援事業) △三重化学工業(化学製品製造業) △わくわく(化粧品小売業) △ヤマモリ(松阪工場(食品製造業) △特定非常利活動法人・裕・生活介護サービスあゆか(障害者福祉) △同市社会福祉協議会松阪支所 △市松阪図書館 △中日新聞松阪支局 △松阪中消防署 △株式会社ナシヨナル・コントリビューション(旅行業など) の12事業者が参加した。各教室で授業の前に体育館で開講式があり、同会議所の川口正人事務局長が「地域のことを愛するだけでなく地域のために貢献する、地域に参画する」という意味を持つ「ビッグブライド」という言葉を紹介した。

講師は70分間で、ヤマモリの谷川原洋管理部長は、同社が得意とするレトルト食品に関連して保存食の歴史の転換点として、1800年代初期にナブレオンが兵糧として



部長 鎌田町の鎌田中

薬がある。それを育ててほしい」とあいさつし、講師を紹介した。

授業は70分間で、ヤマモリの谷川原洋管理部長は、同社が得意とするレトルト食品に関連して保存食の歴史の転換点として、1800年代初期にナブレオンが兵糧として

作らせた瓶詰めだったことや、レトルト食品は1950年代に宇宙食として開発されたことなどを紹介。

三重化学工業の山川寛取締役会長(73)は「中学時代に大事なことは、あいさつをしつかりできる子供になること。二つ目は、いろんな友達を持つこと。三つ目は、しつ

かり自分なりの目標を探ること。こうなりたいというのを持っている人を持つていない人の人生は、ものすごい差が付きます」と助言していた。

キャリア教育講演 竹上市長が来校

また鎌田中学校では、この日午後1時20分から体育館で、同校主催のキ

学校や園、施設へ寄贈

大台町 四半世紀続く柳茶贈呈式

多気郡大台町の茶農家でつくる同町茶業組合(中西一造組合長、20軒)がこのほど、町と町内の福祉施設、町立保育園・認定こども園、町立小学校・中学校の計19カ所に地元産の柳茶のティーバッグ10ずつ、計1900を寄贈した。町役場で毎年恒例の柳茶贈呈式があり、参加した代表者9人に中西組合長(62)から目録が手渡された。

中西さんによると、この柳茶は同町で多く作られている普通煎茶の新芽を摘み取った後に伸びて

きた遅れ芽を摘んだ物。5月ごろ摘み取り、茶農家が農閑期になる今頃の季節まで冷蔵保存して贈呈している。

茶業が盛んで、同組合も今の3倍ほどの組合員がいた四半世紀前から贈呈するようになった。当時は茶農家も余裕がなくて、特産品のお茶を皆さんに飲んでもらい、喜んでからおつというところから始まりました」と中西さん。

当時は製茶工場を持つ組合員だけでも40軒近くあったのが、今は10軒に



はじめ、園や福祉施設の代表らが参列した。

大森町長は「(茶産地の)静岡県の小学校でこのお茶を飲ませてもらう。ありがたい」と感謝した。

中西組合長(左)から茶を受け取る大森町長、大台町役場で

ヤリア教育講演会があり、竹上真人市長が約30分間、講話を行った。

竹上市長は教育施策に力点を置いていることや、市民の声がきっかけとなりクラウドファンディングで松阪農業公園へルファームにユニバーサルデザイン遊具ができたことなどを紹介。

生徒から事前に寄せら

れた「市の今の課題は？」の問いには「人口が減っていくのは大きな課題。それよりもきちんとおなそれがたに奉仕できるか」と「休みの日には何をしていますか」には「ほほ休みはない。でも、たまの休みには家族と一緒に過ごすようにしています。やっぱり家族が大事」と答えていた。

つむぎ

言わせて

りなど 会 ラシック



来場者ら出演者 新聞社で

25日に啓発イベント